

理事・部局長 新任者挨拶

Morita Ikuo

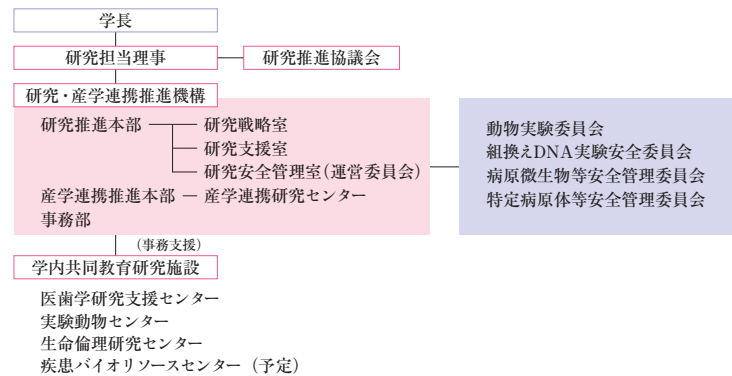


森田育男

研究・産学連携推進機構長

私は、2009年に研究担当理事に就任して以来、大学が自立するためにも、研究成果を社会還元するための知的財産戦略・産学官連携システムの構築が急務であると考え、そのインフラの整備を行ってきました。その結果、2011年4月より、教職員の密接な連携の下、研究・産学連携業務の円滑な運営を図るために、研究・産学連携推進機構を立ち上げました。本機構の概要については下図を参照下さい。知的財産本部を産学連携推進本部に改組し、水谷修紀本部長の下で飯田香緒里センター長を中心に研究成果の権利化およびライセンス活動を行っています。また、本機構のもう一つの役割として、本学としての研究戦略の策定と、先生方の研究のさらなる飛躍のための環境支援があります。本機構を通して、本学のブランド力アップのため、尽力する所存ですので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

研究・産学連携推進機構



Hanawa Takao



埴 隆夫

生体材料工学研究所長

生体材料工学研究所は、医療における「ものづくり」を行う国内外でも類を見ない先導的な研究所です。先進医療における予防、診断、治療を支援する科学・技術で世界をリードし、多くの医療製品を世に送り出してきました。近年、医療および生物研究にかかわる工学、薬学はますます重要になっており、その応用範囲は拡大の一途をたどっています。関連分野を横断的に捉え、生体情報の認識から、生体組織との界面構築、生体反応の制御、生体機能の発現までをカバーしつつ、これらの分野の将来を先取りした研究・開発を実施して医療応用に繋げ、その過程で将来を担う人材を養成することで社会に貢献していく所存です。そのために、将来の当該分野の発展・展開に柔軟に対応できる研究部門構成とする改革を早期に実施し、医歯学および関連産業を基盤から支える中核拠点となることを目指します。

Miyasaka Nobuyuki



宮坂信之

医学部附属病院長

医学部附属病院は、特定機能病院として、①高度な医療を提供する、②高度な医療技術を開発する、③医療研修を行う、という3つのミッションを有しております。患者中心の良質な全人的医療を提供することはもちろんですが、人間性豊かな医療人の育成と高度先進医療の開発と実践を併せて行いたいと考えています。特に、“From Bench to Clinic”の標語の下に、バランスの取れた診療と研究ができる Physician Scientistを育成することが重要な任務であると認識しております。同時に、当院における透明性を確保し、職員および社会に対する説明責任を明確にすることも私の課題であると思います。そのうえで、当院に勤務する医師、コメディカル、事務職員すべてにとって「やりがいのある」職場作りを目指す所存ですので、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

Inoue Tomoko



井上智子

大学院保健衛生学研究科長

2011年4月より保健衛生学研究科の5代目の研究科長に就任いたしました。保健衛生学研究科は、1989年に創設された医学部保健衛生学科が、2001年の大学院重点化として部局化されたもので、現在では教員定員41名、学生数は、研究科定員100名、学部定員360名となっております。振り返りますと、保健衛生学科創設後の最初の10年は大学院博士後期課程までの完成を目指し、次の10年は大学院を中心とした発展期と位置づけてきました。創設後20年を経た現在では、我が国の看護学、検査学における教育・研究のさらなる牽引的役割を担う立場にあります。そのため総合保健看護学専攻では、200校に達する我が国の看護系大学・大学院のなかで、優秀な学生や競争的資金の獲得に努めていくこと、また生体検査技術学専攻では、創成期を支えた教員の世代交代の時期に当たるため、次世代を見据えた組織作りに尽力して参ります。

Yuasa Yasuhito



湯浅保仁

医学部長
大学院医歯学総合研究科副研究科長

東京医科歯科大学医学部は、先人達の努力のおかげで国内でも有数の教育、研究、臨床を誇る学部に進展いたしました。医師養成増の国家的要望もあり、医学科の定員は従来の80名から2011年度には105名に増員しています。医学科と歯学科の学生と一緒に学ぶ医歯学融合教育も始まり、本学の大きな特徴の一つとなるでしょう。また、一部の医学科および保健衛生学科の学生は、海外で臨床研修や研究を行っており、学生の国際感覚の向上は順調に進んでいます。これらの教育におけるリーダーとしての役割をさらに発展させたいと考えています。研究も盛んに行われており、国内外から高い評価を受けています。外部資金の大幅受入増などにより、さらなる研究の発展を推進する予定です。学内には多くの優秀な先生方がいらっしゃいますので、協力しながらますます医学部の発展に尽くす所存です。

Ohno Kikuo



大野喜久郎

理事(企画・国際交流担当)

本学では2008年から2010年にかけて数々の国際交流プロジェクトを開始しています。2011年4月から理事に就任致しましたが、これらのプロジェクトを着実に実行し、本学の発展と国際貢献の新たな展開を目指すことが私に与えられた使命と考えています。現在、特に重視しているのはアジア各国との連携です。2008年に新設された国際交流センターを中心として、過去2年「国際サマープログラム」を開催しました。今年も、アジア各国から24名の学生・研究者を本学に招聘します。昨年にはタイのチュラロンコン大学に研究教育協力センターを設立しました。南米チリのクリニカ・ラス・コンデスおよびガーナの野口記念医学研究所とも協定を締結し、人的交流や共同研究を実施しています。また、米国のハーバード大学や英国のインペリアルカレッジとの学部教育の交流を行っています。今後はより多くの優秀な留学生の受け入れとそれに伴う経済的支援を計画しています。

